

ふるさと奥尻通信

平成27年4月30日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

春、穏やかに過ごしたい心とはうらはらに、肌寒い潮風に吹かれると心中穏やかならぬ事多く、つい余計なことを考えてしまう。悩み多きかな人生。

特集 詩句にみる奥尻島

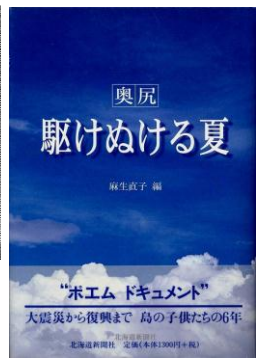
今号では奥尻を詠った詩人、俳人を紹介し、その作品から島の風土や息吹を感じていただければと思います。

詩人・麻生直子(あそうなおこ 本名：村田千佐子、旧姓：深谷)

麻生さんは、昭和16年(1941)に奥尻島で生まれ、奥尻小学校を卒業した後に離島、対岸の江差町へ渡り、江差中、江差高を経て函館西高校を卒業、昭和40年(1965)より東京都で暮らしています。同45年より「潮流詩派」誌上にて作品を発表、以降は児童向けの詩や童話、新聞コラム、書評など多方面で活躍しています。1993年の北海道南西沖地震後は奥尻島にも足しげく通われ、島の子供らと詩の教室を開くなど、故郷を襲った災害と、そこから立ち直っていく島民の姿を詩に詠っています。近年では、南西沖地震20年追悼式典にて詩の朗読をしています。



麻生直子氏



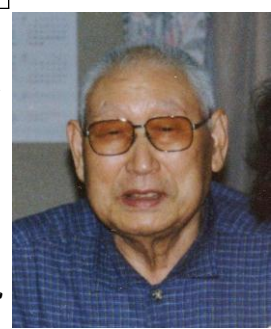
著書一覧 編著・共著含む把握分のみ

合に※	岬美へ	みむ夜妹	岬美よ	よみ悲漁妹	岬の
唱て震	にし忘	んか明よ	にしへんし火よ	んし火よ	の
し青災	にいれな	えけの弟	い忘ないの出く弟	ないの来夜の眠れ	ち
た苗5	い丘の願行	の港よ	夜れ空のやさし	のやさし	か
。小周	花のい	ここに	にのいよ)	いし	い
青追	飾り	をう船起	咲き青	をい出	麻
苗悼	ましの	がきて	まゆりか	をい出	生
中コン	したりの	ぼるらよ	たりか	をい出	直
の子サ	たの歌	ならい	りか	をい出	子
供らト	の歌	い	か	をい出	子
が	歌	友	ご	をい出	子

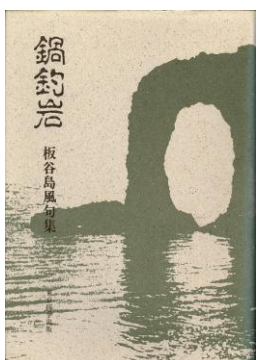
1974	霧と少年	潮流出版社
1978	北への曳航	潮流出版社
1982	神威岬	潮流出版社
1987	ペDESTリアン・デッキの朝	潮流出版社
1991	現代女性詩人論	土曜美術社
1994	奥尻島断章	潮流出版社
1995	麻生直子詩集	土曜美術社
1999	奥尻 駆けぬける夏	北海道新聞社
2004	女性たちの現代詩	梧桐書院
2006	足形のレリーフ	梧桐書院
2008	憶えていてください	梧桐書院
2012	アイヌ 母のうた	現代書館

俳人・板谷島風(いたやとうふう 本名：板谷勝三郎)

板谷さんは大正3年(1914)に現在の奥尻町字赤石で生まれ、生家の稼業である漁業ののち、商業に転身。赤石地区で商店を開き、後に奥尻地区で食堂やスナックを営みました。店を娘に任せた、昭和55年(1980)65歳の時に一念発起して俳句を始め、「河内野」に入会、館野翔鶴、若林南山、中嶋秀子に師事。奥尻町文化協会内につくられていた俳句会を立て直す形で「奥尻あげぼの句会」を設立し、同58年には処女作「潮音」を刊行しました。以降、島内の同人に指導をおこないながら、奥尻島の風土や歳時記を詠う句集を発表しています。震災後の平成8年(1996)に札幌市へ移住、同18年に亡くなりました。



板谷島風氏



著作一覧 把握分のみ

海	雪	漁	空	大	鳥	砂	年	海	生	島
苔	の	火	高	漁	賊	を	輪	胆	涯	通
採	日	を	く	旗	火	擦	を	採	の	ひ
りに	の	股	六	あ	あ	る	銀	りし	揺	一
に	海	に	尋	げ	る	孕	の	礁	れの	便
桧	誰	鍋	棹	て	み	み	鱗	夜	のは	ふ
山	も	釣	上	烏	み	み	に	汐	はじ	や
連	見	岩	げ	賊	み	み	鱗	が	まり	し
峯	ず	の	鮑	船	み	み	に	来	若	花
晴	見	秋	抜	傾	み	み	鱗	て	布	ぐ
れ	え		く	ぎ	み	み	鱗	癒	の	も
わ	え			来	み	み	鱗	す	芽	
たり	も			る	み	み	鱗			
	せ				み	み	鱗			
	ず				み	み	鱗			
					み	み	鱗			
					み	み	鱗			
					み	み	鱗			
					み	み	鱗			

1983	潮音	私家版
1987	奥尻	東京四季出版
1991	鍋釣岩	東京四季出版
1997	ふるさと	私家版





大正11年(1921)の青苗湾と砂丘です。富里の府金さんの小山から青苗岬方向へ向かって撮影しています。画像左手、樹木が生えて小高く連なるのが青苗砂丘で、その外側が、大きく湾曲した青苗湾です。砂浜が広がるので、地元では前浜と呼んでいます。見えにくいかもしれませんが、船が何艘も砂浜に乗り上げてあり、青苗港が整備される以前は、自分の家の前に船をあげて漁に出ていた訳です。青苗岬の徳洋記念碑はまだ建設前ですので、写っていません。画面手前の民家はまばらですが、中央部から岬に至るにつれて、びっしりと密集しているのが判ります。それでも、一段上の段丘上に建物はなく、今のような団地造成が行われるのは昭和30年代半ば以降で、それまでは、グラウンドや放牧地として利用されていました。当時の島の人口は964戸、男3033人、女2872人の合計5905人でしたが、この時期は硫黄鉱山の開発もあって、島の人口は高めでした。

日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか

矢部宏治
東京はインターナショナル

学芸員オスマの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか

矢部宏治 集英社インターナショナル

日々の生活に追われる庶民にとって、政府のやっていることは、テレビや新聞の中の出来事のように他人事になりがち。それでもちょっと注意してニュースを見てみると、米軍基地問題と原発再稼働問題が目立ってくる。どちらもアメリカが関係しているのだが、そもそも出発点はどこ？そこには昭和20年の日本の敗戦の前後から画策された戦後日本統治策が…。

月刊 奥尻のつり 4月号

さあ、春の釣りシーズン真っ盛りです！今年は早々からホッケの便りが各地から届いております。東海岸の沖合、奥尻港内、赤石方面でも好調のようです。ということで、学芸員が取材に行ったところ、武士川周辺でポンポンと飽きない程度にホッケが釣れ、一回に6~7匹を数えました。一方、カレイの方は、港内ではコンスタントに掛かりますが、浜ではまだ早いようで、小ぶりなのがチョロチョロといったところ。釣果を見ると、産卵後とは言え、クロガシラは40cmを超えるような比較的大型の傾向があり、クロガレイ、マコガレイは30cm半ばくらいが多いようです。これから西海岸の遠投ではマガレイが釣れだすだろうと、学芸員は分析しているようです。サクラマスはまだちらほら姿を現しているの、船釣りの方は諦めるのは早いでしょう。

続・昭和奥尻生活詩 4回

昭和10年 奥尻郡釣石尋常高等小学校一年生「鳥賊つけ」

兄淋燈	貴し台	のくの	船鳴ど	れたが	だらう	一〇・一五	作	暗風い	船にな	入つた	波けが	打そん	つに	ける	船を待つ						
向	鳥	東	暗	船	の	船	な	入	つ	た	の	波	け	が	打	そ	ん	つ	に	け	る
向	鳥	東	暗	船	の	船	な	入	つ	た	の	波	け	が	打	そ	ん	つ	に	け	る

感め酒禁ん〇大た集四が使
じるをかで升集とめ月完つ昨
たこゆらし用会こて二成て年
一のつーま意とろ大十し釀来
夜幸く三つしな、試八まし地
でせり〇たたり二飲日した元
しをと年と酒ま〇会にた地の
たし味余かのし〇を。酒米と
。みわ、。七て名行般そ一
じつ地飲割、ほい町こ奥水
と飲の解飲〇のしを、



植木の手入れも好きです

員今年度から奥尻町教育委員
ります。奥尻町教育委員
を卒業後、奥尻町教育委員
も卒業後、奥尻町教育委員
史や風土や文化の調査
と見やまらな文化の調査
でをかし風土や文化の調査
おでをかし風土や文化の調査

よろしくお願ひします

か催くん古い業り露釣をし
出すがさう自参目り引てま
来ると、れ言得つ会にきだ
なと、実た葉てで出た肌寒
い毎際言が継しもかそら、
この年に葉あ続ま痛けれ、
どの変日かりはい飲、です
は、わ々もま力まし、日もつ
す。なずけれ、りた、す酒張りに
かにてま言、つおつ風熱
な開いせいと自か披て邪中

マラソンカウントダウン2
や函めお後漁な十め定みでを
い館に酒に火り五、員がに受四
や、ハおではをま日暮にあ二け月
、申榮美見しま集はり五付一
やフしし味なたでのまま〇け日
つと込みしが、延締だし名開り
ば迷みたいら奥長め余た以始り
りうくい島走尻す切裕。上し、
奥なだ方のりであるりがその
尻あさは味、満こをあれ申こト
で？いお覚完月と五るでしれリ
い！早と走とと月たも込ま



ADK初飛行 航空便第一便のハガキ